

水の物語

白嶺中学校 2年 山下 峻佑

- 1-1 白山手取川ジオパーク
- 2-1 手取川セキ用水
- 2-2 枝権兵衛
- 3-1 銘文
- 3-2 加藤 藤兵衛
- 3-3 1号銘文
- 3-4 2号銘文
- 3-5 ミンジャ
- 3-6 流雪溝

(参考資料)

岩壁に刻まれた銘文について - 白山峰の近世銘文調査 -
手取川セキ用水土地改良区HP, 白山市HP

(写真提供)

白山市教育委員会文化財保護課

1-1 白山手取川ジオパーク

テーマは「山・川・海そして雪、いのちを育む水の旅」
この研究では、水をテーマに、手取川七ヶ用水と白峰の水を取り上げ、それに関連する歴史上の人物を調べてみました。

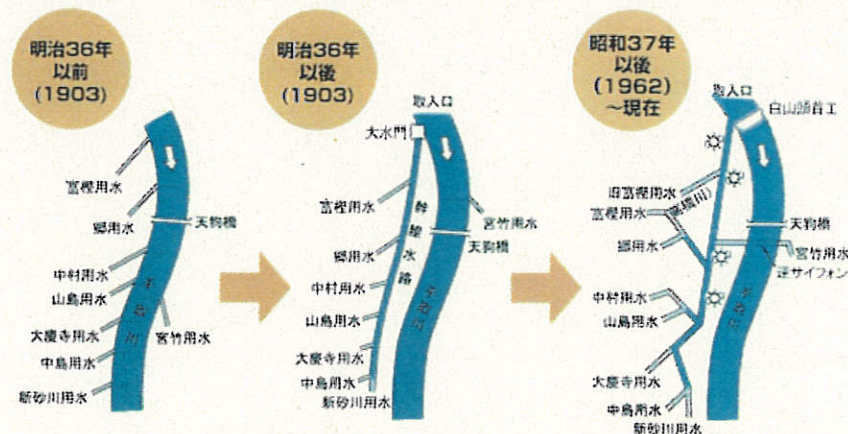
[illegible]

手取川は、氾濫を繰り返しながら「たびたび水路を変えた」と
言われる暴れ川で、永い年月を経て、日本の代表的な扇状地を
作り上げました。

その分流入として、富樫・郷・中村・山島・大慶寺・中島・石少川
(現・新石少川)の七つの用水があったことから「七ヶ用水」と
呼ばれています。

七ヶ用水のかんがい区域は、3市1町（白山市、金沢市、野々市市、川北町）です。昔からこの用水は、村々に引かれて、飲料水、農業用水として清らかさを守り、汚物が禁じられ地域の農民が生まれてから死ぬまでの霊水であると言われていました。

七ヶ用水取水口の移り変わり





大水門



給水口



白山頭首工



富樫用水取水門



白山管理センター



水力発電所

※ 大水門や富樫用水取水門は歴史的な価値があり、文化財への取り組みが進められています。

2-2 枝権兵衛



明光小学校



古宮公園



枝権兵衛のトンネル



あくどがうち

現在のセキ用水に大きな影響を及ぼした歴史的人物に枝権兵衛(1809~1880)がいます。

江戸時代に生まれた枝権兵衛は水と人との生活を考え、農民の悲願であった安定した用水の取入を行うために、いくつもの苦勞を乗り越えながら、その生涯と全財産をかけて、安久壽ヶ淵(あくどがうち)からトンネルを掘り、手取川の水を取り入れることに成功した偉大な先駆者です。

人々に多大な恩恵を与えた枝権兵衛は、「セキ用水の父」と言われています。

3-1 銘文

白峰の明谷川左岸に、岩壁に刻まれた銘文が2か所あります。一つは「元和」の年号と加藤藤兵衛と思われる人名があり(1号銘文と呼びます)、もう一つは「弘化」と推定される年号があります(2号銘文と呼びます)。

1号銘文は「年号岩」「苗字岩」「年号壁」などと呼ばれ、大正14年に白峰地区が設置した銅板の由来書がはめ込まれています。



銅板(左) , 1号銘文(右)

(訳)

元和年間に加藤藤兵衛が開削した明谷用水は、経年による水路の損傷が進んでいたため、大正14年、白山水力株式会社が送電線を架設するのに合わせて、用水の改修に取りかかることにした。区長以下5名を委員に選任し、10月、250箇所余りに及び用水の改修、暗渠等の工事を起工し、11月には竣工した。

※ 1箇所は約1.8m

3-2 加藤藤兵衛

江戸時代初期に白峰を治めていたのは、加賀一向宗の鎮座に貢献した士豪、加藤藤兵衛でした。

当時の白峰集落は、南側(南番)だけしかなく、その理由が、北側(北番)は岩盤上にあり、水を確保できなかったためと言われています。そこで藤兵衛は、シシヤと呼ばれる水路を設置し、南番だけだった白峰に、北番も作りました。

ところが、藤兵衛のその後の悪政もあり、白山の利権を巡る村同士の争いが起ってしまいました。幕府は藤兵衛を追放し、白峰を含む18の村を幕府直属の「天領」としました。そして村々を取り仕切る大庄屋は山岸家が代々務めることになりました。

加藤藤兵衛のことを「白峰の枝権兵衛」と呼ぶ人もいます。



明谷用水

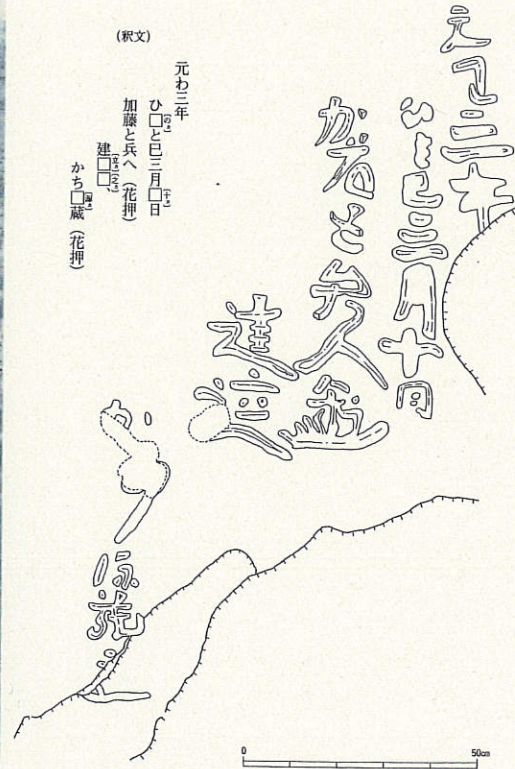


山岸家

3-3 1号銘文



文化財保護課提供



近世銘文調査



今年8月の時には、
草かこけにおおわ
れて、文字がよく
わからない状況でした。
※元和時代
1615～1624年

3-4 2号銘文



0 30cm

今年8月の時でも、
はっきりと文字を見る
ことができました。

※弘化時代
1845～1848年

← 近世銘文調査

3-5 シンジャ

白峰では、集落内の用水をシンジャ（水屋）とっちんでいます。明谷川から水を引いた理由は、集落内では地盤が固く、井戸が掘れなかつたため、飲料水の確保ができませんでした。昭和31年に簡易水道ができ、シンジャは飲料水としての役割を終えました。その後、流雪溝として利用されています。

山岸家周辺に昔からのシンジャが残り、最近では雪だるまカフェや白峰温泉総湯などの所に、重要伝統的建造物群保存地区の整備として、シンジャが復活しています。



山岸家庭



木下商店 前



総湯前



雪だるまカフェ 後ろ

3-6 流雪溝

白峰は豪雪地域で有名ですが、冬の生活は大変です。昭和38年の豪雪を教訓として、除雪車や、流雪溝の整備が進められました。流雪溝は白峰集落全体に整備され、末端は手取川に2本、大道谷川に1本流れています。

白峰の人たちは「ミ」と呼ばれる特別な道具で朝早くから除雪作業を行っています。

流雪溝の整備で雪を克服することができ、次は雪を利用するスキー場がオープンし、そして雪と親しむ雪だるままつりが開催されるなど、雪に対する意識は大きく変わっています。



流雪溝



末端（手取川）



末端（大道谷川）



雪だるままつり